

よたろうの妻INDEX

(ワンダフルライフ)

傘～傘に守られ、傘を愛して～(2016.6)

定年後の私の生き方(2018.6)

私の活力の源ビール(2021.8)

(エッセイさまざま)

ご近所さん 10 人でバリ島に行ってきました(2015. 2)

北京に行ってきました(2015. 12)

チェコ共和国に行ってきました(2015. 12)

9周年記念の集いへのお誘い(2017. 2)

バルト三国に行ってきました(2017. 8)

コロナ禍における私の自粛生活(2020. 10)

新潟県上越市が生んだ偉人達(2022.12)

新潟県上越市が生んだ偉人達(その1)(2023.1)

新潟県上越市が生んだ偉人達(その2)小川未明 (2023.2)

新潟県上越市が生んだ偉人達(その3)小林古径 (2023.3)

新潟県上越市が生んだ偉人達 (その4)前島 密 (2023.4)

新潟県上越市が生んだ偉人達 (その5)川上善兵衛 (2023.5)

新潟県上越市が生んだ偉人達 (その6)横尾義智 (2023.6)

新潟県上越市が生んだ偉人達 (その7)レルヒ少佐 (2023.7)

新潟県上越市が生んだ偉人達 (その8)坂口謹一郎 (2023.8)

新潟県上越市が生んだ偉人達 (その9)宮下千代 (2023.9)

(会のあゆみ)

牧野信成牧師様、お元気で！(2017. 6)

(ワンダフルライフ)

傘

～傘に守られ、傘を愛して～(2016. 6)

うっとうしい梅雨の季節になりましたね。

私は、今年の3月、神戸婦人大学の卒業研究で「傘」について学習しました。

宮沢賢治の詩にあるような「雨ニモマケズ、風ニモマケズ、雪ニモ、夏ノ暑サニモマケズ……」そんな傘を求めて、傘の歴史、種類、構造、機能などの基本的なことや、最近の傘事情、傘に対する日本人と外国人の習慣、認識度の違い等々多岐にわたり学びました。



今回はその中から、「傘に対する日本人と外国人との習慣、認識度の違い」について紹介します。

傘は、私たち日本人にとって必需品であり、雨の日には傘を差すのが当たり前で、また、夏の強い陽射しを避け、熱中症対策や紫外線を防止するため日傘を差す人も多くなっています。近頃は、「日傘男子」ともいわれるほど男性も日傘を利用するようになってきました。

日本の傘の年間消費量は、国の人口に匹敵する約1億300万本と膨大な本数であり、世界第1位とのことです。

日本人は、外出する前に天気予報を確認して、雨に備え傘を用意するが、外国人には、わざわざ傘を携帯して外出する習慣はあまりありません。

また、日除けについても外国では、日傘よりサングラス、帽子のほうが多く使われます。

これは、日本人には色白が美人との見方があるが、外国では日焼けは余裕のある生活の象徴となっていることが影響しているのかもしれない。

このように欧米人等は、多少の雨なら傘は差さずフードのついたレインコートを着用し、また日傘もあまり差しません。



そのため、日本では傘文化が育ち、外国ではレインコートの文化が育ち、レインコートは実用性だけではなくてファッションの中でも高い位置を占めています。

パキスタンでは、男性用の傘はほとんどありません。ジャカルタでは、雨傘は持たずに雨が降ったら雨宿りをして止むまで待つそうです。また、握手やハグをする習慣があるため傘を持って手がふさがるのを嫌がるとの話もありました。

気候や国民性、習慣の違いはあるにしろ傘を多用する日本人は、外国人から見ると奇異に見えるようです。しかしながら、日本製の傘は海外では高く評価されています。

傘のいろいろを学ぶうち、結婚式の傘、庭園の野点傘、皇后陛下が園遊会で使用された傘等々、世の中の傘すべてが気になるようになりました。今後は、傘について学んだ知識を生活に活かし、周囲の人達にも伝えていきたいと思っています。

竹の台よたろうの妻

定年後の私の生き方(2018. 6) よたろうの妻(竹の台)

家族や仲間の協力があって私は38年間、仕事を続けることが出来ました。

その間、家事、子育て、親の介護や、持ち帰りの仕事と、多忙な日々
の連続でした。

そのため、退職したら頑張ることや一生懸することは一切やめ、今ま
でしたくても出来なかったことをゆっくり、のんびり楽しもうと心に
決め、まず神戸市のシルバーカレッジに入学しました。

卒業後は、神戸市の婦人大学へ行き、その後、いなみ野学園に入学しました。この間、いろいろな趣
味やボランティアもし、楽しく充実した毎日を送っています。

今日はこのような定年後の私の取り組みの一部を紹介させていただきます



まずボランティアについてです。

私たち家族は、西神ニュータウンに住んで31年になります。

とても便利で恵まれた街です。しかしながら、近年、急激に少子高齢化が進み、一人暮らしや空
家の増加など、様々な課題が懸念されます。

このような西神ニュータウンで何か少しでも役に立てたらと思っていましたところ、ちょうどそ
の時、神戸市から委嘱されて一人暮らしのお年寄りの家庭訪問をすることになりました。これを
「友愛訪問」と言います。

訪問をしている方の中に全盲で一人暮らしの人がいます。その方は目が見えなくても社交ダン
スを楽しんだり、日本の伝統文化を大切に、進んでお正月の行事などに参加されています。

たまたま、2月の節分の日に訪問したとき、一粒一粒手探りで豆をつまみ、「鬼は外・・・」「福は
内・・・」と一人で豆まきをされている姿を見かけたときは感動しました。

老人福祉施設への訪問では、

仲間と一緒に、マジックや手作りの大型紙芝居をしています。特に紙芝居で人気があるのは、「日本昔話」や「金色夜叉」、「愛染かつら」です。

会の終わりには、いつもハーモニカに合わせて、童謡や昔なつかしい歌を歌っています。このような紙芝居や歌に対して、寝たきりの方もそれなりの反応を示し、楽しみにして頂いています。

お年寄りと接する中で、その方が頑張ってくられたことや生い立ち、生き様などいろいろと教えていただくこともあります。

次に児童館や保育園への訪問では、



子どもの年齢にあった絵本や、興味を示す絵本を選んでいきます。「ありがとう」、「おもしろかったよ」の声や、可愛いらしい子ども達の笑顔にパワーをもらい、私自身の活力のもとになっています。また、

自宅で行っている「手作り教室」や「お話の会(セミナー)」では、

身近な素材を使つての小物づくりや、地域にお住まいの音楽、文学、歴史、税、法律、手話等を得意とする人を招いて講話をして頂いています。毎回、好評で約20人程度の参加があります。

次は、趣味についてです。

趣味は、いろいろありますが、特にスタンドグラスでランプやパネルを作ったり、革でカバンや小物を作ったり、絵を描いたりすることが好きです。

また、昨年末にハレルヤコーラスの合唱を歌い遂げたときの感動も忘れられません。

このような趣味は、手間と、時間と少々お金がかかりますが、作品が出来上がった時の喜びは、それまでの苦勞を忘れさせてくれます。

ボランティアと趣味の定年後の生活は、仕事をしている時と違って「あっ」という間に時間が過ぎ、一日が過ぎていきます。

定年後の一日一日は貴重で、大切にしなければならないことを痛感します。また、人生の後半になっての友達づくりは難しいのですが、学園生活や趣味の会などを通して多くの方々に出会い、仕事をしていたときとは違う新たな仲間づくりができました。

これらの活動は私にとって何よりの経験であり、財産です。

私は、いろいろな人と接するとき、

いつも丁寧に愛を持って接するように心がけています。愛という字は「人の心を受け止める」と書きます。ご近所の皆さんやボランティア、趣味の会で出会う人達の心をしっかり受け止め愛を持って行動したいと思っています。

これからも人生の後半を、明るく楽しく元気よく、愛と感謝の気持ちを忘れず一日一日を大切に生きていきたいと思います。

私の活力の源ビール

よたろうの妻(竹の台)

私は、胃腸の調子が悪い時、食欲のない時、疲れている時、気になる事があって落ち込んでいる時、ビールを飲むと元気を取りもどす。宴席でも最初から最後までビールを飲んでいる。こんなに好きなビールですが、何かと悪評が付きまとっている。ビールを健康的に楽しむことができないのだろうか。そんな思いからビールについてリサーチした一部をご紹介します。



1ビールの基礎知識

ビールは酵母の違いにより「ラガー」「エール」に大別される。

(1)ラガービール(下面発酵で造られるビール)

すっきりした味わいが特徴である。香りが強くなく苦味をよく感じる。日本の大手ビールメーカーが発売している商品のほとんどがラガービールである。

(2)エールビール(上面発酵で造られるビール)

フルーティな甘みのある味わいである。エステルという香りの成分が多く残り、しっかりとした香りがある。イギリスやベルギーなどでは主流のビールである。

ビールには様々な種類があり、それに合わせた飲み方がある。

2ビールの健康効果

ビールといえば、痛風というイメージをもっている人が多いのではないのでしょうか。ビールは痛風と関連があるが、毎日大量に飲み過ぎでもしないかぎり、可能性は低い。飲むと太りそうというイメージもあるが、1回の摂取量を500mlに抑えれば太ることはない。

(1)血管を若返らせ動脈硬化を予防する

ホップに含まれているキサントフモールとイソフムロンにも動脈硬化の予防効果が証明されている。

(2)脳を活性化して認知症を予防する

ビールを飲むとなぜ、認知症予防になるのかは、キサントフモールは、神経細胞の変質を防ぎ、アルツハイマー型認知症の進行を遅らせることができる可能性がある。イソフムロンは神経細胞の死を抑えることからアルツハイマー型認知症と脳血管性認知症の両方に有効である。また、ビールは血糖値の急増を抑えて老化や病気の原因となる身体の酸化を予防をしたり、リラックス効果が得

られたり、様々な面で健康維持のため一役買っている。ビールの苦み成分(ホップのイソフムロン)こそ様々な薬理効果がある。まさに「良薬は口に苦し」である。

(3)骨密度を高めて骨粗しょう症を予防する

骨を丈夫にする栄養素としてカルシウム、骨を強くするにはケイ素というミネラルが欠かせない。ビールの原料であるホップにケイ素が多く含まれている。

骨は全てがカルシウムでできているわけではない。体積の50%はコラーゲンとタンパク質で構成されている。コラーゲンは「骨質」を強化する。コラーゲンの劣化の最大の要因が活性酸素と糖化であるが、いずれにもビールに効果があると認められている。

3ビールを楽しむ

五感で楽しむ

- ①視覚:ビールの色をじっくりと観察
- ②聴覚:グラスの中ではじける音に耳を傾ける
- ③臭覚:匂いも嗅いでみる
- ④触覚:一気に飲み込まず、口当たりを楽しんでからゆっくり味わう
- ⑤味覚:最後にのど越しを感じてフィニッシュ

このように五感で味わうと、ビールがいかに深い味わいを秘めているかがよくわかる。

一杯目は、すっきりしたエールビール。二杯目はのど越しがいいラガービール。三杯目はスタウトなどコクのあるビールで締める。

せっかく飲むなら、おいしく！楽しく！「毎日一杯のビール健康法」を始めてみませんか。

(エッセイさまざま)

ご近所さん10人でバリ島に行ってきました(2015・2)
よたろうの妻(竹の台)

その時、バリ島で知り得たことを(皆さんご存知かもしれませんが)箇条書きにしてみました。



・バリ島の人口は約390万人、広さは日本の栃木県くらい。

関空からデンパサールまで約7時間。(時差1時間)

・何はともあれ、インドネシア語であいさつ！

おはよう「スラムツパギ」

こんにちは「スラムツシアン」

こんばんは「スラムマラム」

ありがとう「トゥリマカシ」

・お金は「ルピア」で、日本円に?ケタとった金額、2,000ルピア=20円。

物価は安い、

ミネラルウォーター(500ml):2,500ルピア(25円)

ハンバーガー(マクドナルド):9,000ルピア(90円)

コーラー:7,000ルピア(70円)

・バリ島の公務員の給与1か月、日本円で約3万円~4万円。

・健康保険は、個人で、年金も個人年金のみ。

・水道水はそのまま飲むとお腹をこわすのでミネラルウォーターのみ飲料。

・高温多湿でほこりっぽい、街はきたなくごみごみしていた。

4月~10月(乾期)、11月~3月(雨期)

・信号が少ない。バイクが多く、車の間をうまくすりぬけて走っていく。

車は、日本のトヨタ、ホンダ、スズキが目についた。右ハンドル。

・義務教育は、6. 3. 3制。

小学校1年生~3年生午前中の授業(7:00~12:00)

4年生~6年生午後の授業

公文等の塾もある。

・大学を出ていないと就職がむずかしく、また留学する人も多い。

・一番盛んなスポーツはバトミントン。

・鉄道なし、車のみで移動。

・ウブドは芸術の街、サヌールはヨーロッパ人のリゾート地。

・節目、節目の祭りが多く、お金がかかる。

・インドネシアは、9割がイスラム教だが、バリ島は9割がヒンズー教。

これは、インドネシアのヒンズー教の人たちをバリ島に追いやった為このようになった。

島には、あちらこちらにヒンズー教の寺院があり、独自の文化を持っている。また、寺院の入り口には、日本のこま犬のようなバロン(かわいい子鬼の顔している)がいる。

・毎日、家の前に紙皿を置いて花を飾りつけ、線香を立てる。

・バリ島人は、死んだら火葬にして骨を海に散骨する。散骨したらガンジス川に行くと信じられている。そのため墓がない。

・地元人は、海には悪霊がいるといい、海では泳がない、泳いでいるのは外国人。

・「因果応報」(人の行いの善悪に応じて、それにふさわしい報いが必ず現れる。)という考え方で、凶悪犯罪は少ない。

・若い人は家や店の前に座り込んでおり、お年寄りは見かけなかった。

・父母をうやまい、年寄り、子どもを大事にする。子を神様扱いし、新生児は3か月ぐらいまで、床に置かない。

バリ島の人々のやさしさにふれ、歴史と文化、自然をかいま見、おいしい食べ物をいただき、また、パリスパでお肌をツルツルにさせていただき、心身ともに癒され、お気に入りのバリ猫のグッズを持って皆様と無事帰国しました。

北京に行ってきました(2015.12) よたろうの妻(竹の台)

以前、日本と中国が国交を回復したころ「日中友好の船」で「上海」に行ったことがあるのですが、今回は、是非自分の足で「万里の長城」を歩いてみたいとの思いで「北京」を旅することにしました。



関西空港から約3時間で北京に到着、高層ビルが立ち並び、街路樹が美しい
広い道路はいつも渋滞しており、また人通りも多く、さすが人口約13億9千万人の大国の首都と、強いパワーを感じました。
旅行期間中は、非常に天気恵まれPM2.5の心配もなく青空と紅葉の中で旅することができました。たまたま、ドイツのメルケル首相が中国を訪問中で、歓迎の旗がメイン道路にたなびいていました。

このような北京旅行で知り得たことを箇条書きにしてみます。

- ・北京は日本の四国とほぼ同じ面積。人口は2100万人で多民族だが、92%が漢民族。
- ・大陸性気候で寒暖の差が激しく、四季があり、日本の秋田県と同じ緯度。
- ・台風、地震はない。
- ・車は左ハンドル、世界各国の車が走っているが軽自動車は見かけなかった。
タクシーが多く、95%が韓国産とのこと。
- ・街路樹は、にせあかじや、ポプラ、柳が多い。
- ・公務員の平均給料は、月16.7万円
- ・休日の公園では、太極拳、おどり、歌、ハーモニカを吹いたり、椅子に座って将棋、囲碁、トランプなどを楽しんでいた。
- ・北京では新中国成立後の1950年代に城壁の取り壊しや天安門広場の整備等、大規模な都市整備が一気に行われた。
- ・北京には世界遺産に登録されたスポットが6カ所あり、どれも壮大な規模を誇っている。
①万里の長城②明・清朝の皇宮群③明・清朝の皇帝陵墓群④天壇⑤頤和園⑥北京原人遺跡
- ・料理の種類：山西料理、点心料理、四川料理、広東料理、北京料理等
(中でも美味しい北京ダッグが忘れられない)

・街はきれいになったが、比較的トイレの環境はあまり向上していないと感じた。

中国のお土産といえば、翡翠、漢方薬が代表的ですが、普段から睡眠障害で薬に頼ることが多かった私にとってよかったのは寝具店で買ったラテックス枕です。この枕で寝るようになってから薬なしでねむれるようになりました。今回の旅で一番の収穫です。

チェコ共和国に行ってきました(2015.12)

竹の台よたろうの妻

「チェコが誇る7つの世界遺産の観光、世界で最も美しいと称されるチェスキー・クルムロフの宿泊」等々のうたい文句に誘われ、9月下旬にチェコ共和国へ8日間の旅に行ってきました。

今回は、全員で10人の恵まれたツアーで、首都プラハを中心に10都市を回りました。



チェコは、ポーランド・オーストリア・ドイツ・スロバキアの4つの国に囲まれた内陸国でお饅頭のような形をしており、隣国の文化が所々に感じられました。人口は約1,054万人、面積は日本の5分の一弱、言語はチェコ語、通貨はチェココルナ(1コルナは、約5円)で物価はそれほど高くない。

14世紀に神聖ローマ帝国の首都として栄えたプラハをはじめ悠久の時を感じさせる街が多いが、カルロヴィヴァリという温泉保養地等の街もみられる。

中でもプラハは、周辺国から幾多の侵略を受けながらも奇跡的に破壊されず、数百年を隔てたロマネスク様式からゴシック、ルネッサンス・バロック、アールヌーボの各時代の建築物様式が隣り合わせて調和し、独特の景観をかもしだしている。

チェコ人は、背が高く女性の平均身長は170cm台、男性は190cm台で、どこのホテルでも洗面化粧台が高く、ドアののぞき穴は162cmの私の身長で背伸びをしてもものぞくことができなかつた。

国民一人当たりのビール消費量が世界で一番とあって、水よりもビールのほうが安く、昼夜にかかわらずどこの町に行ってもビールを飲んでいる人々を見かけた。チェコの人たちにとってビールは飲むパンのようでした。

また、ビール好きの私にとってもたまらない街で、食事ごとにいろいろなビールの味を楽しみました。あるビール好きの日本女性が、毎日ビールを楽しむために移住したという話も聞きました。

チェコの名物料理は、クネドリーキ(日本の蒸しパンをスライスしたようなもの)で食卓には欠かせない主食です。はじめのうちはおいしくいただきましたが、毎食出てきたので最後の日はほとんど残してしまいました。

全体的には日本人の口に合う味の食事だと感じました。

チキンや豚はよく食べるが、あまり魚は食べないようです。しかし、クリスマスには鯉を食べる習慣があり、クリスマスツリーにも鯉の飾りをつけるとのこと。



また、文化面では人形劇や、アニメーションも注目を集めています。露店では数々の面白いあやつり人形が販売されており、思わず買ってしまいました。

我が家にお越しの折は、あやつり人形を見て微笑んでください。

車好きの息子のこともあり、街を走る車に目が行き何枚も写真を撮ってきました。チェコ産車はショコダの1種類で、ヨーロッパの国々の車が多く、日本車はあまり見かけませんでした。

街中は、主要幹線の車道を除いて、ほとんどが石畳でごろごろしていて、かかとのある靴では歩きにくい。

医療保険が充実しており、カルロヴィヴァリの温泉地で、温泉水を飲んでの長期の治療をしても治療費はもちろん宿泊代も保険が適用される様です。

参加者の二人の女性が和服一式を持ってこられて、プラハの街を和服姿でしゃなりしゃなりと散歩されている姿は、違和感はなく、とても良い雰囲気でした。

帰りは、ボヘミアングラスとあやつり人形を抱え、フライト5回目の新しい飛行機に恵まれ、足を延ばしながらゆったりと帰国することができました。

9周年記念の集いへのお誘い(2017.2)

よたろうの妻(竹の台)

2017年2月19日(日)13:00～、西区民センター2階なでしこホール
で、作曲家の池辺晋一郎さんをお招きして記念の集いを開催します。

今迄の取り組みの総括として10周年記念行事を成功させるとともに、
9条の会の輪をさらに広げたいという思いから、会員一同で一生懸命に
取り組んでいます。私も一人でも多くの方に参加していただこうと入場
券の販売に全力をそそぎ沢山の方に買っていただきました。



案内のチラシを見て池辺先生を知らない人もおられました、「えっ、あの池辺先生が区民セン
ターにきてくれるの、すごい?」とか「私の娘は池辺先生のちょっとした指導助言で、合唱で優勝し
ました。」「あのNHKのN響アワーで長年司会をされた方ですね。」「だじゃれの池辺先生ですか」
等々・・・大きな反響がありました。

講演会前のオープニングでは、西神ニュータウン内の「ジェントル美賀多男声合唱団」の皆さん
に、さだまさしの♪防人の詩♪ウルトラマンメドレー♪の2曲を歌っていただきます。

また、「NHK神戸マリンハーモニー」の皆さんによるハーモニカ演奏もあります。マリンハーモニ
ーはNHK神戸文化センターの教室で村上浩一先生の指導のもと「楽しく明るいハーモニカ」を目
指して頑張っておられるグループです。曲目は、♪星の世界♪花つむぎ♪です。お楽しみに!!

演題は“池辺晋一郎さんが奏でる第9条”

～音楽・文化で世界の輪～お楽しみに。

お知り合いを誘っておいでください。お待ちしております。

バルト三国に行ってきました(2017.8)

竹の台よたろうの妻

関西空港から10時間でフィンランドのヘルシンキへ、そこからバ
ルト海峡をクルーズして、エストニアの首都タリンに到着、時差は-
6時間。

バルト三国(エストニア、ラトビア、リトアニア)は、バルト海峡の南
西沿岸に位置し、人口130～285万人、面積は北海道の60～8
0%の小さな国だが、この三国の独立が大国ソ連の崩壊のきっか
けとなった。



工芸など東欧や北欧に近い文化を持ち、また、三カ国ともそれぞれの言語を持っている。

(エストニアの首都タリン)

タリンは、城壁に取り囲まれ、中世の雰囲気息づく街。旧市街は世界遺産に登録され、世界で一番空気のきれいな国と言われている。

さほど広くはないが通路や坂、階段がそこかしこにあり、塔や丘の上から眺める景色は抜群で、どこをとっても絵になる街だ。

今の時期(夏)は、白夜で午後8時頃でも日が差し、真夜中の11時頃でも少し暗い夕方のようにした。

エストニア人の多くがプロテスタント系のキリスト教徒で、実利的な考え方をするとされている。北国の住民らしく無口で愛想笑いなどはしないが、軽薄さはない。また美男、美女が多いのには驚いた。日本で最も有名なエストニア人は元大関の把瑠都です。

(ラトビアの首都リガ)

リガはバルト三国最古の街で、その時代ごとの建築様式の変化をたどることができる。街を散策していると、私たちが日本人だと思ってか、ストリートミュージシャンが、日本でもヒットした「百万本のバラ」を弾いてくれた。歌を口ずさみながらの観光は最高でした。性格は慎重だが、歌好き、祭り好きの明るさもあるとのこと。

(リトアニアの首都ヴィリニウス)

タリンやリガに比べてのんびりしている。カトリック特有の柔和なバロック建築群がさらにその雰囲気を強くし、迷路のような細い通りをただ歩いているだけで気持ちが和む魅力的な街です。

ちょうど5年に一度の「子どもの祭典」があり、ヨーロッパ中から民族衣装や可愛い服を着た子ども達が大勢集まり、パレードやイベントをしているのを見ることができた。

また、リトアニアのシャウレイにある「十字架の丘」は、象徴的な聖地として丘の上に無数の十字架が立ち並んでおり、目に焼き付いています。

最初の十字架は、ロシアへの蜂起で処刑・流刑にされた人のために建てられたそうです。

(カウナスでの日本人「杉原千畝」の活躍)

リトアニアの首都ヴィリニウスから約西へ100kmのカウナスに旧日本領事館があり、杉原千畝(ちうね)の功績を称える記念館となっている。

第二次世界大戦時に日本領事代理だった杉原千畝は、日本政府の命令に反して、行き場のないユダヤ人に日本を経由して第三国へ渡航できるビザを発行し、約6000人の命を救った日本人外交官として、この街で彼の名前を知らない人はいない。また、他にも記念碑等が各地にありました。



(三カ国で他に知り得たこと)

- ・公園では、鳩ではなく少し強暴と思われるカモメが沢山いた。
- ・コウノトリが電柱の上に巣をつくり飛んでいるのをよく見かけた。
- ・車は、昼でも点灯。信号は少ないが、歩行者を見ると必ず止まってくれる。
- ・平均月収は、エストニア:10万円、ラトビア:8万円、リトアニア:7万円(数年前の統計)
- ・リトアニアに初めて行った日本人は、福沢諭吉、その次が、前述の杉原千畝

何よりも楽しかったのは、38名のツアー仲間と出会い、飲食を共にし、様々な人生を語り合い、交流できたことです。西神ニュータウンからも3組が参加されていました。



コロナ禍における私の自粛生活(2020.10)

よたろうの妻(竹の台)

新型コロナウイルス感染防止のための巣ごもり生活では、普段出来ない事や家の中の片付け等をしようと思いましたが、意志が弱く韓国ドラマにどっぷりはまってしまう実行できていません。

毎年の年賀状に、一年間の家族の姿や心構えや目標を川柳にして送っていますが、今年の私の川柳は、「ひとまわり痩せて見せます年女」でした。

コロナ自粛中に、アルコール(ビール)を控えてひとまわり痩せることができた喜んでたのもつかの間、今年の猛暑で毎日、毎日・・・ビール、ビール・・・の生活に戻り、あっという間に体重が元に戻ってしまいました。

コロナ自粛のため、今まで楽しんでいた高齢者大学、ボランティア活動や趣味の会もなく、長いトンネルの中にいましたが少しずつ元の生活に戻りつつあります。



9月に入り高齢者大学が再開して、久しぶりに会った友と再会を喜び合うとともに、少し気が引き締まった感じです。

老人福祉施設や保育所、学童保育所、小学校への訪問ボランティア活動はまだ再開していません。今は、仲間と一緒にマジックの練習や、手作りの大型紙芝居の作成や、読み聞かせの練習をして準備をしています。

新型コロナウイルスとの戦いは長い道のりですが、この難局を一日も早く乗り切って、子ども達や、高齢者の皆様に楽しんで頂いたり、趣味を楽しめる日が来ることを待ち望んでいます。

新潟県上越市が生んだ偉人達(2022.12)

よたろうの妻(竹の台)

夫の故郷(新潟県上越市)を一年間に何度も訪れ、その度に隣人や友人を招き、上越市を案内しています。

上越の人々の性格は、雪に閉ざされた寒い冬に作られる「誠実で忍耐強い人」が多いと言われていますが、幕末から明治にかけて近代日本を拓いた多くの偉人が出ています。このような偉人達の生い立ちや功績を調査し、多くの方々に知って頂きたいと思います。

偉人達の紹介の前に、新潟県上越市について少しご紹介します。



上越市は、新潟県の南西部にあり、以前の直江津市と高田市を中心に広大な平野が広がって、北に日本海、南に妙高山や黒姫山などの山々を望む、人口約20万人の街です。6年前に北陸新幹線の金沢と長野間が開通しました。そのとき上越市内に「上越妙高駅」がつくられ、これからの発展が期待されています。

上越市の気候は兵庫県の但馬地域と同じで、雨が多く、また日本でも有数の豪雪地帯です。昭和2年、実家近くの人里で積もった8メートル18センチの積雪は世界の最高記録となっています。数年前も私の家に、2m45 cmの積雪がありました。

上越市内の見どころとしましては、戦国の武将「上杉謙信」の居城があった春日山城址があります。

また、そこから4km先には、徳川家康の六男、「松平忠輝」の居城として築かれた高田城址があります。

高田城址には、4000本の桜の木があり、「日本の三大夜桜」の一つとなっています。夜、お堀に映る桜とぼんぼりの明かりが素晴らしく、雪国の春を喜ぶ人たちで賑わいます。また、夏には外堀が蓮の花で埋め尽され、蓮まつりが開かれます。



上越市から少し足を伸ばして、妙高高原で温泉につかりながらスキーやゴルフ、テニスを楽しんだり、野尻湖での避暑も最高です。

新潟県上越市が生んだ偉人達(その1)(2023.1)

よたろうの妻(竹の台)

(調査を予定している新潟県上越市の偉人)

1)小川未明

日本のアンデルセン。童話の父と呼ばれている。
著書「赤い蠟燭と人魚」や「雪来る前」などがある

2)小林古径

日本美術院の中心的な日本画家。代表作品は、切手になったことでも有名な「髪」、「清姫」など

3)前島密

近代日本郵便の父。一円切手になっている

4)川上善兵衛

日本のワイン葡萄の父。栽培からワインの醸造までを一貫した葡萄園づくりを目指した

5)横尾義智

日本唯一の聾啞者の村長として人望厚く、地域に貢献した

6)レルヒ少佐

上越市の金谷山で、日本に初めてスキーを伝えたオーストリアの軍人、アルペンスキーの名手

7)坂口謹一郎

世界的な応用物理学者

8)江田鎌治郎

日本酒造りの礎を築いた先人

9)宮下チヨ

よたろうの母。108歳まで認知症もなく農業一筋に生き、俳句を楽しんだ

10)その他



以上の方々を一人ずつ紹介させていただきます

新潟県上越市が生んだ偉人達(その2)(2023.2)

よたろうの妻(竹の台)

小川未明

日本のアンゼルスン、童話の父と呼ばれ、現在もたくさんの読者に親しまれています。未明は、明治15年上越市幸町で旧高田藩士の家に生まれました。

小川家では代々子どもが育たないというので、生後すぐに捨て子という形で隣の蠟燭造りの家に養子に出され、三歳ごろまで育てられました。

夏目漱石の幼少時と似ています。



父親は、教道職の資格をもち戦国時代の武将上杉謙信を崇拝していました。その影響や祖母から聞かされた神秘的な物語が、未明文学の土壌を形成していきます。

その後、現在の高田高校を経て、早稲田大学へ入学。ここで恩師・坪内逍遙と出会い、作家小川未明としての第一歩を踏み出しました。

卒業後も小説を中心に創作活動が続けるかたわら、大恋愛の末、新潟県長岡市の商家の娘山田キチと結ばれました。キチとの間に三人の子どもがいましたが、二人の子どもを亡くしています。次女鈴江は(後、児童文学者岡上鈴江)父、未明はいつも故郷「上越」のことを思っていました。その父が作った詩で、私が好きなものとして

『夕雲紅く北風寒し故郷の山今夜雪ならん』をあげています。

小川未明と三つの時代

1, 天性のロマンチスト-----新ロマンチズムの時代

幻想的でロマンティックな作風の小説が特徴です。その頃の代表作品

『愁人』『緑髪』

2, 弱きものために-----社会主義の時代

小説を書きながら童話の創作もはじめた未明は、明治期の末、最初の童

話集『赤い船』を刊行しました。大正期には持ち前の正義心から社会主義思想に傾倒し、社会的弱者の立場に立って書いた作品を意欲的に発表しました。持ち前の幻想性が社会性を兼ね備えて、最も充実した活動期に入りました。代表作品『物言はぬ顔』『小作人の死』

3, 童話作家宣言の後-----児童文学一筋の時代

未明は自ら主宰して童話雑誌『お話の木』を創刊。このころから戦争を肯定する作風が見えるようになり、人々を驚かせました。

代表作品『金の輪』『赤い蠟燭と人魚』



おわりに

79歳で死去するまで1200点以上の作品を書きました。

その作品には、少年時代を過ごしたふるさと上越市の自然と、人々の情景が幻想的に描かれています。また同時に社会で苦しむ弱い人たちに対する愛情と、そして社会の不自然さや理不尽さに対する憤りとかが描き出されています。

私たちは、小川未明の数多くの作品を通して、当時の社会や人々の姿、そしてそれを見つめる未明のまなざしに触れることができます。



ふるさとの上杉謙信の居城であった春日山に、『雲の如く高く雲のごとくかがやき雲のごとくとらわれず』の碑が建っています

新潟県上越市が生んだ偉人達(その3) (2023. 3)

よたろうの妻 (竹の台)

小林古径

近代日本画壇を代表する小林古径は明治16年新潟県上越市大町に生まれました。父は元高田藩士で、明治維新後は新潟県の役人の仕事をしていました。

古径の本名は茂といい、家族は父・母・兄・妹・祖母の6人家族でしたが、悲しいことに少年時代に次々と家族を失い、13歳の時には妹と二人きりになってしまいます。幼くして親を亡くし妹を養う一方で、12歳の頃から日本画を学んでいた茂は、絵の道に進みたいと強く願うようになりました。



16歳の時に上京し、日本画家・梶田半古の画塾に入門し「古径」という雅号をもらい、「写生」と「画品」(画の品格)について教えられた古径は、画塾の中で頭角を現し、展覧会でも実力を認められるようになります。

大正3年、31歳の時には第1回再興日本美術院展で入選し、同人に推挙されます。以後は日本美術院展が主な作品発表の場となりました。

大正11年には日本美術院留学生として1年にわたってヨーロッパに滞在し、西洋美術を研究しました。

昭和19年東京藝術大学の教授となり、後進を育てることに力も注ぐようになりました。

昭和25年、67歳の時には長年の功績が認められて文化勲章を受章しました。

昭和32年、74歳で死去するまで、美しい線描と澄んだ色彩で数々の作品を制作しました。

切手になったことでも有名な「髪」は昭和6年の作品で、前年に発表された「清姫」とともに古径芸術の頂点ともいべき代表的名作です。

古径が制作活動に没頭できる背景として、彼の芸術性を理解し、物心両面から支えるパトロンが存在が大きかったと考えられます。その一人として、細川護立が挙げられます。

古径と同年生まれである細川護立は、小林古径や横山大観をはじめとする近代美術作家たちを庇護し、その優れた審美眼によって作品を収集して珠玉の近代日本画コレクションを形成しました。

上越市の高田城跡公園内に「小林古径記念美術館」があります。我が家から徒歩10分のところです。上越にお越しの折には是非一度お立ち寄りください



新潟県上越市が生んだ偉人達（その4）（2023.4）

よたろうの妻（竹の台）

前島 密

前島密は「日本近代郵便の父」と呼ばれ、現在でも1円切手の肖像として有名です。天保6年、新潟県上越市下池部の豪農上野家に生まれました。幼くして父を亡くしますが、教育熱心だった母から学ぶ喜びを教えられ、また、叔父で糸魚川藩の藩医のもとで医学にふれ、医者になることを志した。



12歳で江戸へ旅立ち医者をめざして苦学の中で様々な人物に出会い大きく成長していきます。

18歳の密は黒船来航に接して人生航路の指針を大きく変改することとなります。医者をめざすより、今は国家国民を守るというもっと大事なことがあることに気づいたのです。また、これからはオランダ語ではなく、英語を学ぶ時代であることを先輩から諭され、英語の学習をはじめました。

江戸では、政治・兵法・西洋事情などの本を書き写す仕事などで生計を立てながら学問を続けました。慶応2年、前島家の養子となり前島姓を名乗ります。同年、幕臣 清水与一郎の娘 奈可(仲子)と結婚。

明治3年、駅逓権正(えきていごんのかみ)に任ぜられ郵便事業開始を発案。同4年、イギリスで郵便制度を調査して帰国すると駅逓の頭(郵政大臣)に任ぜられ、飛脚を廃止して、切手・ポスト・全国同一郵便料金など、郵便制度の確立を図りました。

同8年には、郵便貯金、郵便為替、外国郵便を開始させ、また電信電話事業の発展にも尽くしています。生命保険と年金事業も構想し、簡易保険・郵便年金も実現した。

同14年、大隈重信とともに立憲改進黨を結成。また開運・鉄道などに功績を残し、早稲田大学の二代目校長も勤めています。郷土の発展のためにも尽くし、室幸次郎らの鉄道敷設運動の支援や北越鉄道の社長として 上野 — 新潟間 の鉄道を開通させた。

大久保利通の大阪遷都論に反対し江戸遷都論を主張しました。また、漢字廃止論者として「ひらがなしんぶん」を発行し、その後も、国語調査委員としてこの問題に取り組んだ。

同37年、貴族院男爵議員に選任され、明治43年辞任まで勤める。ローマ字を広める会を設立。

同43年ほとんどの役職を辞する。

大正8年、84歳の生涯を閉じました。

激動の幕末・明治という時代をまさしく陰ながら、社会全体がより便利に、より快適になる方法を提案し続けた人物でした。そして、生誕地であり幼少期を過ごした新潟県の上越こそ前島密の原点でした。

彼の生地には、「前島密記念館」が建てられ、遺品や切手、飛脚の歴史、通信、電話の歴史が分かるように展示され記念碑には、日本の文明開化を率先した前島密の功績と人柄が、同時代をともに生きた人々の言葉で刻まれています



新潟県上越市が生んだ偉人達 (その5) (2023.5)

よたろうの妻 (竹の台)

川上善兵衛

「日本のワインぶどうの父」と言われている川上善兵衛は、慶応4年上越市北方の地主の長男として生まれました。幼くして父を亡くし、7歳で家督を継ぐ。



当時の農村は、水害や冷害により満足な米の収穫は3年に一度程度と苦しい生活が続いていました。幼い頃からそんな状況を見て、農村の未来を考えるようになり、14歳で上京し慶応義塾に通う。

また、祖父の代から川上家と親交のあった勝海舟を師と仰ぎ通っていた際、輸入ワインを振る舞われ、ワインの原料の葡萄は荒れた土地でも栽培できて田畑をつぶさないで済むので、新しい産業として農民の生活向上につながると考えた。

勝海舟が善兵衛に対して「志はよいが財産を失わないように」と諭したという逸話もある。いずれにせよ善兵衛の生涯に大きな影響を与えた。

20歳の時、農民救済のため「葡萄を育て、ワインを造る」ことを決意。そのため、葡萄栽培と、ワイン醸造について学ぶため、葡萄栽培については、東京の苗木商の小沢善平に、ワインの醸造法は、土屋龍憲と高野正誠に3年間、一人の農夫として初歩から学ぶ。

明治23年、私財を投げ出して自宅の庭を改良し「岩の原葡萄園」を開園。同27年初めてワインを醸造したが発酵温度が高かったので、酸味が強く飲めるものではなかった。

失敗を基に本格的な、地下式の石蔵を建て、雪室に貯蔵した雪によって発酵温度を調節するなどして、同31年ようやく製品化に成功した。

善兵衛が日本で初めて取り入れた密閉醸造と低温発酵の技術は、現在でも良質なワインを造るためには欠かせないものとなっている。

日本の風土に適した葡萄品種の開発を目指し海外の品種を取り寄せ試験栽培を繰り返したが、適した葡萄品種は見つからなかった。



大正12年善兵衛が54歳の時「メンデルの法則」を知り交配による品種改良を始める。10,311株の交配を行ったが実を結んだものは、わずか1,100株。昭和2年マスカットベリーA、ブラッククインなどの品種を作りだした。

現在のサントリーの創設者、鳥居信治郎とも交流があり、サントリーがワインを造るにあたって川上善兵衛が生み出したマスカットベリーAの葡萄を山梨県の登美農園(現、サントリー登美の丘ワイナリー)で生産した。

昭和16年、彼の論文に対して「農学賞」が授与された。

また、地域社会にも幾多の業績(高士村の村長、高士村小学校落成等)を残した。

昭和19年急性肺炎により、76歳の生涯を終えました。

※「岩の原葡萄園」の近況

岩の原葡萄園では、善兵衛の志を引継ぎ、善兵衛の生み出した葡萄品種から 高品質のワインを
現在も造り続けています。

- ・平成27年 日本ワインコンクールで8品目受賞
- ・令和元年フェミニリーズ世界ワインコンクールにおいて「深雪花 赤」及び他1品が金賞受賞。



新潟県上越市が生んだ偉人達（その6）（2023.6）

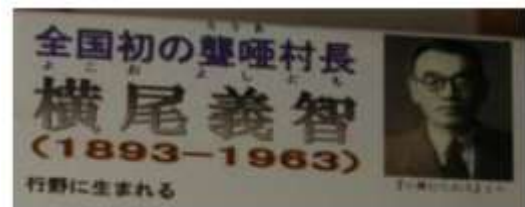
よたろうの妻（竹の台）

横尾義智

明治26年新潟県上越市安塚で横尾家の長男として生まれた。

生家は大地主で、巨万の富を有していた。父は東京上野寛永寺で学び、教育に熱心であった。義智は生まれつきろうあ者であったので、東京聾啞学校へ9歳で入学。

図工科に在籍し、絵画について学んだ。



卒業後、18歳で帰郷。21歳の時、父死去。義智が家督を相続する。

22歳で塩崎サトと結婚。

その後、農業協同組合となるまで29年間、組合長を勤めた。また、小黒村公認消防組設置。初代組長となるなど村の数々の新しい組織を築きあげる。

昭和9年40歳で小黒村村長に就任。全国初のろう者村長となる。

その後3期12年間、村長として人望厚く多難な村政の舵取りを行った。廃村寸前にあった村を救うために直接、政府に赴いて交渉するなどの政治的な手腕を振るっていた。

議会对応などはすべて筆談であり、議会における資料を徹夜で人数分だけ書き写しを行い、助役がその資料を村長に代わって読み上げていた。村民からは「おっち村長」と慕われていた。



おち村長は、村の危機を救ったばかりでなく、村では最初の保育園を作った人でもあり、自分の土地を解放して小学校を作った人でもある。また、当時の村の経済を考え、道路の整備にも力を注いだ。

しかしながら、日本の敗戦後におけるGHQの公職追放令が交付されたとき、横尾義智もその対象となり村長を辞職しなければならなくなった。

資産家でもあった横尾氏は、豪壮な邸宅と蔵、庭園、膨大な美術品を有していたが、戦後の混乱の中で、大半を失ってしまった。しかしながら、邸内に残っていた「雪室」は現在、有形文化財に登録されている。

村長を退いた後は、ろう者の組織を作るために東西奔走し、現在の全日本ろうあ連盟の設立に力を注いだ。ろうあ者の社会参画にも貢献。全日本ろうあ連盟理事に選出され、上越市に県立高田ろう学校設立運動を行う。

農地開放と社会事業に多額の支出をした後、安塚の本邸宅を引き払い上越市西城町(我が家のすぐ近く)に移して別邸を本拠として活動した。

59歳の時、義智を支えてきた妻サト死去。その後も、ろうあ団体関係の仕事をこなす。歩行困難で体調を崩し、69歳で上越市西城町の別邸にて死去。

日本において、はじめてのろう村長である横尾義智氏の功績を後世に残そうと、「横尾義智記念館」を創設。企画・管理。生家跡の旧年貢倉庫を利用して在りし日の思い出を偲ぶために、横尾家の家系図や絵画、ゆかりの品々が展示されている。



私は昨年、「横尾義智記念館」を訪問し地元の代表者で、記念館を管理しておられる方に丁寧に案内をして頂き書籍を3冊購入して帰った。帰る間に、取れたての野菜も頂いた。

新潟県上越市が生んだ偉人達(その7) (2023.7)

よたろうの妻 (竹の台)

レルヒ少佐

オーストリアの軍人レルヒ少佐は、明治 43 年、日露戦争で勝利した日本陸軍の研究のため来日する。その時、レルヒ少佐により、新潟県上越市高田の金谷山で、初めて本格的なスキーの指導が行われた。これが日本のスキーの始まりです。

レルヒは、1869年(明治 2 年)オーストリアの軍人の家庭に生まれる。(4 人兄妹の長男)。

1888年ウィナー・ノイシュタットのテレジア士官学校に入学し、1891年少佐に任官。配属当初から知的才能、責任感、知識、指導力に秀で、上官や部下への人当たりもよく、勤務評定で高い評価を得ていた。



日本陸軍は、来日していたアルペンスキーの名手であったレルヒのスキー技術に注目し、新潟県上越市高田の金谷山において軍人に対してスキーの指導を行ってもらった。

つづいて民間にも指導し、高田スキー倶楽部が発足するなど、あっという間に市民にも広まった。



レルヒは一本杖、二本杖の両方の技術を会得しており、日本で伝えたのは杖を一本だけ使うスキー術である。重い雪質の急な斜面である高田の金谷山の地形から判断した結果である。

日本のスキーの原点である一本杖スキー技術は、10 年ほどで二本杖スキーに変わり、現在のカービングスキーへと変化した。一本杖スキー技術は、レルヒ少佐の直弟子から孫弟子に、そして市内の関係者に受け継がれた。

平成 6 年からはレルヒの会がその伝承活動に取り組んでいる。上越市が全国に誇れる文化として伝えている。訪日時は少佐で、少佐の時にスキーを日本に伝えたため、日本国内では一般的には「レルヒ少佐」と呼ばれている。後に中佐に昇格したあと日本各地を回ったため、北海道などでは「レルヒ中佐」と呼ばれている。レルヒはスポーツマンで、スキーのみならず、水泳、サイクリング、スケート、登山と何でもこなした。また、芸術にも秀で、絵画を嗜んだ。

現在、上越市はレルヒの描いたオーストリアの山々や町並みなどの水彩画約 50 点を所蔵している。また、レルヒはドイツ語のほかチェコ語、マジャル語、イタリア語、フランス語、英語、ロシア語の 7 か国語が話せた。日本語も来日時に少しだけ習得した。

1930年(昭和5年)、上越市高田に「スキー発祥記念碑」が建立されたとき除幕式に招待されたが、身体の具合が思わしくなく財政的に厳しいという理由で来日を断った。

そんな窮状を知った日本の有志らが協力して見舞金を集め、当時の金額で1600円(現在の貨幣価値で600~800万円相当)を寄付した。

そのお礼に礼状とともに自筆の油絵と水彩画が贈られた。



「日本スキー発祥記念館」には、当時のスキー板、様々なスキー文献、遺族から寄贈された手記などの貴重な資料を多数展示している。

スキーのシミュレーションで実際のスキーを体感できる。また、展示されている絵画作品の中で、レルヒが描いたテンペラ画は素晴らしく、私のお気に入りの絵画のひとつです。

レルヒの子孫は現在でも上越市と交流を続けている。

また、「ゆるキャラレルヒさん」は、2011年に日本のスキー発祥100周年をきっかけに誕生したご当地キャンペーンのキャラクターとして誕生。評判を呼んでいる。



新潟県上越市にお越しの際は、オーストリア風の建物の記念館“日本スキー発祥の地”に是非一度お立ち寄りください。

新潟県上越市が生んだ偉人達(その8) (2023.8)

よたろうの妻(竹の台)

坂口謹一郎

世界的な「応用微生物学者」であり、また酒に関する著書も多く豊富な知識から「お酒博士」とも呼ばれ、親しまれた。明治30年新潟県上越市高田(我が家から徒歩10分くらいの所)で坂口家の長男として生まれる。

生家は大肝煎(江戸時代の行政官)で、生まれたころは石油精製の工場を営んでいた。

大切に育てられたが、やがて家業がうまくいなくなり両親と離れて暮らすなど恵まれない幼少期を過ごした。



さらに明治 43 年高田中学校に入学し、2~3 か月たった頃、小児麻痺にかかり歩けなくなりました。内気な一方、芯の強さと粘り強い一面があった坂口少年は、「歩けるようになりたい」「学校へ行きたい」という強い思いで 3 年近い闘病生活を経て、病気を克服した。同級生は皆進学しているが、1 年生からやり直すしかなかった。闘病中も通信教育で勉強し、努力し、学問には自信があった。

大正2年に上京し、東京神田の順天中学校に編入。坂口少年は、毎日のように本屋に通いつめ、さまざまなジャンルの本を夢中で読んだ。

その後、大正 5 年に超難関校の旧制第一高等学校(現在の東京大学)に入学した。大正 8 年生涯の研究テーマとなる微生物と発酵に出会う。在学中に指導を受けていたのが、酒や醤油の醸造学や発酵の仕組みを研究していた高橋貞造教授。

教授は坂口に研究室に残ることをアドバイスし、研究者としての道を歩み始めた。坂口青年は、再び病魔に襲われます。当時は不治の病だった結核にかかってしまいました。さらに大正 12 年に起きた関東大震災で被災。研究活動は中断してしまいます。

そんな中、坂口青年を支えた女性がいました。既に婚約をしていた高田出身の倉田カウ(前回の偉人で紹介しました川上善兵衛の親戚にあたる人)です。カウさんは、療養先まで付き添い献身的に看病しました。その甲斐があつて坂口青年は結核から回復し、二人は結婚します。

自身の病気や震災の経験から「微生物の力を人々のために使えれば」という思いで研究に没頭し、微生物を産業や工業に役立てることに力を注いだ。

私たちの身の回りの生活は、微生物(細菌、カビ、酵母)から様々な形で影響を受けています。このようなことを研究する学問を「応用微生物学」と呼び、近年ではバイオテクノロジーとして様々な研究が行われている。

坂口博士は、応用微生物学の分野で大きく貢献し、世界の水準を超える功績をあげました。また、博士のもとで指導を受けた多くの人材は、国内だけでなく、世界各地で幅広い分野で活躍を続けており、その影響力は計り知れないものがあります。

◎幻のお酒復活

麴菌の研究を進めるため、全国の酒蔵をまわり約3000株の麴菌を集め、日本酒の醸造に必要な微生物学的基礎を確立した。黒麴菌は、沖縄の酒・泡盛をつくるための菌です。

第二次世界大戦ですべて焼失したといわれ、戦後は新たに培養された菌で泡盛が造られた。しかし、坂口博士が戦前、全国をまわって集めていた麴菌の中に沖縄の黒麴菌があり、東京大学に冷凍保存されていた。沖縄の酒造会社はその菌を使って醸造し、およそ60年ぶりに幻の泡盛「御酒(うさき)」が復活した。



◎「発酵」がおいしいものを作る！

カビなどの微生物が、ある物質からちがう物質を作り出すことを発酵といいます。

お米がお酒に、大豆が醤油や味噌になるのは麹菌の発酵のおかげです。

発酵しておいしい食べ物ができる例として、たとえば乳酸菌が牛乳を発酵させてヨーグルトをつくることや、ナットウ菌が大豆を納豆に変える事などが知られている。

◎「アミノモト」のもと！？

皆さんの家庭でも使っている「アミノモト」のもとになっている物質(ヌクレオチド・グルタミン酸)も、小さな微生物である細菌が発酵をおこなって作っています。

「アミノモト」のもとをつくる細菌は、坂口博士が指導した人たちによって発見された。

◎薬もカビが作る！！

薬のなかには、カビが作るものもある。ペニシリンという薬はアオカビの発酵から作られます。

ペニシリンは、微生物による病気に効果がある薬で、抗生物質といわれる薬の仲間です。

第二次世界大戦中、日本は世界に遅れていたペニシリンの研究・開発をおこなった。坂口博士もこの研究グループの一員として、ペニシリンの開発に大きく貢献した。

「応用微生物学」や「発酵学」の大家として名を馳せつつ、一方では、多くの研究所を作った。

(食糧管理局研究所・東京大学応用微生物研究所 等々)こうした功績が認められて、

昭和 42 年に文化勲章を受けた。平成 6 年97歳で亡くなりました。

◎坂口記念館

坂口記念館は、坂口博士が大戦中、疎開していた時に住んでいた場所(上越市頸城)です。

まるで「NHKのハルさんの休日、古民家カフェ」を思い出すたたずまいの記念館です。

記念館には、坂口博士が植え、愛したツバキの花が、博士を懐かしむように咲き誇っています。

また、博士が上越の友人とお酒を楽しんだ地元の日本酒の試飲もできます。皆さんも訪ねてみませんか。



新潟県上越市が生んだ偉人達(その9) (2023.9)

よたろうの妻(竹の台)

宮下千代

よたろうの母、千代は、明治41年生まれ。
今はもう亡くなりましたが、当時の上越市の最高齢者として
108歳まで認知症もなく元気に過ごしていました。
明治、大正、昭和、平成の時代を生きてきました。
米作り一筋に、雨の日も、風の日も、冬は雪との闘いの中、夏
の暑さにも負けず、夫を早く亡くし、女手一つで5人の子ども
を立派に育てあげ、私から見たら偉人です。



米作りも現代と違って、機械化されていない時代です。すべて
手作業で「米」という漢字のごとく八十八回の手間をとって
米作りをしていました。
機械化されていないなかでの百姓の大変だった話をいつも
笑顔で、新潟弁の優しい言葉で聞
かせてくれていました。



豊作の 祈りを旨(むね)に 田の草の
取る手につまむ オモダカの花
(千代作)

冬は、縄をない、それを売る。また藁(わら)で米俵やむしろ、「わらぞうり」を作る。着物の縫い物
(和裁)等々をして現金収入を得ていた。
屋根の雪下ろし作業は雪国にとって大変な負担でした。
こんな母親の姿を見て育った「よたろう」の兄弟は、みんな働き者です。
どの兄弟の家に行っても、庭に、草 1 本、葉っぱ 1 枚落ちていません。この背景にはいつも「千
代さんがいるなあ」と感心します。
こども達の参観日や何かの会がある時は、いつもの野良着ではなく見たことのない服を着て
ちょっと、おしゃれをして出かけていきました。
私の大好きだった千代さん。今ごろどうしているかな？
千代さんの事を思い出しながら書いていると、涙がぽろぽろと止まらない。
「千代さんありがとう。天国から見守っててください。」

たったひとつの千代さんの趣味は俳句です。
忙しい中での唯一の安らぎの時間でした。折込チラシの裏の白い面にぎっしり書かれていた

千代さんの四季の俳句を紹介します。

(春の句)

- ・初雛に 着飾る孫も 雛の顔
- ・わらべうた 聞こえて若草 匂い来る

(夏の句)

- ・大の字に 昼寝して居る 帰省の子
- ・白樺の 奥に滝あり 霧立ちぬ

(秋の句)

- ・夜なべの灯 漏(も)れて路地まで 秋の夜
- ・新米の 香り豊かに 客の膳

(冬の句)

- ・農に生き 土に睦(むつ)みて 冬支度
- ・何処(どこ)までも 雪の壁なる バスの窓

今まで「新潟県上越市が生んだ偉人達」を読んで頂きありがとうございました。
この回で終了させていただきます。

(会のあゆみ)

牧野信成牧師様、お元気で！(2017. 6)

「西神ニュータウン9条の会」のホームページへの何回もの投稿や講話をしていただく等、大変お世話になった西神教会の牧野牧師さんが、長野県にある佐久伝道所と長野伝道所の2つの伝道所から招聘され、8月から赴任されることとなりました。赴任先は、牧野牧師のお母さまが開拓されたところとお聞きしております。



異動準備でお忙しい中、牧野牧師さんから5月15日に「聖書における神と人間の歴史」と題して1時間半にわたり最後のご講話をいただきました。お話は、「イスラエルとは」、「イスラエルは歴史とどう向き合ったか」等々、旧約聖書をひもときながら、美しい日本語で分かりやすく語っていただきました。牧野牧師のお話をはじめで聞かれた方は、「聖書を通してのお話ははじめてで、とても感動した」と言っておられました。

ホームページでも、神の平和宣言、人の命の尊厳について、戦争はどうして起こるのか等々、多岐にわたるメッセージを楽しみに読ませて頂いておりましたが残念です。

牧野先生、長野に行かれましても健康にはくれぐれも気を付けられ、益々のご活躍をお祈りいたしております。先生との出会いを心より感謝いたしますとともに再会を楽しみにしております。ありがとうございました。

竹の台よたろうの妻